

**平成25年度図書館重点事業
実施報告**

平成26年9月

東村山市立図書館

平成25年度図書館運営方針

○ 運営方針

市民の多様な学習スタイルや読書要求に応える情報提供の充実に努めるとともに、東村山市子ども読書活動推進計画を推進する。また、読書に関わるボランティア活動、地域活動を支援し、自治意識を育む生涯学習環境の整備に努める。

○ 重点事業

1 「第2次子ども読書活動推進計画」の推進

子どもに関わる部署や関連施設との連携、子どもの読書に関わる市民活動への支援、市民と行政との協働体制の充実に努め、年代や生活環境に合わせた取り組みを行う。

- (1) 「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」づくり（東村山版ブックスタート事業）の推進
- (2) 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (3) 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援

2 資料提供の充実

インターネット情報の活用並びに活字資料の利用が困難な場合にも配慮し、多様な市民ニーズに対応できる資料をバランスよく収集することにより、暮らしに役立つ情報提供の充実に努める。

- (1) インターネットを活用した情報提供の充実
- (2) 大活字本や音訳CDの利用促進
- (3) 視覚障がい者等へのデージーによる情報提供の充実

3 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。

- (1) 安定的な施設管理および適切な読書環境維持への工夫
- (2) 図書館システム更新に伴う業務整理および安定的な移行実施

4 職員体制の充実

本についての相談や調べものについての質問に、的確な対応ができるような人材の育成を図る。

- (1) 業務内容に応じた各種職員研修の充実

1. 「第2次子ども読書活動推進計画」の推進

1-1. 「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」づくりの推進（継続）

取り組みと実績

市立図書館を中心に、おひさま広場、子育てひろば、児童館、保育園など、市内のいろいろな場所で乳幼児が絵本と出会う機会を提供した。（東村山版ブックスタート）

1. おはなし会の開催

内容	実施館	実施回数		大人(人)		子ども(人)	
		H24	H25	H24	H25	H24	H25
赤ちゃん絵本ひろば (0. 1歳)	中央図書館・ 本町児童館	21	22	523	422	523	422
2・3歳のおはなし会	中央図書館	10	10	82	55	92	117
0～3歳のおはなし会	地区館4館	52	54	551	425	771	709
幼児のおはなし会	全館	161	163	495	356	1,216	1,016
その他のおはなし会	萩山・廻田	8	8	74	54	116	118

* その他、市内の子ども関連施設等でのおはなし会には、要請に応じて読み聞かせボランティアの派遣を行った。（実績は次項目1-2参照）

2. 3～4か月児健診・乳児学級での啓発事業の企画・支援

読み聞かせボランティアが親子一組ずつに絵本を読んだ後、読み聞かせの大切さや市内のおはなし会情報を伝えた。乳児学級の歯科編・栄養編ではプログラムの中にボランティアによる読み聞かせを取り入れ、情報提供を行った。（ボランティア派遣は次項目）

3. おすすめ絵本パックの設置

身近な場所で絵本を楽しんでもらうことを目的に、「おすすめ絵本パック」として図書館で選んだ良質の絵本を20冊セットして子ども関連施設（おひさま広場、子育てひろば等）に設置（20か所（24年度：18か所））し、セット内容の更新やメンテナンスも継続した。

成果

- ◆ 図書館はじめ市内各所での読み聞かせは、概ね順調に行なわれ、乳幼児親子が絵本に触れ合うきっかけを作ることができた。

課題

- ◆ 子どもが大きくなるにつれ、出かける場所の選択肢が増えるため、幼児のおはなし会の参加者数（1回当たり）が少ない。PR及び保護者への啓発の工夫が求められる。
- ◆ 「おすすめ絵本パック」更新の希望が多く、継続的な資料費が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 子育て中の忙しい生活の中でも、身近に本があることが必要である。
- ◆ 絵本と出会うための取り組みが良く行われているが、より利用しやすくするために、図書館以外でも本を返せる場所を設けてもらいたい。
- ◆ 読み聞かせの大切さや図書館利用について、さらにPRを進めてほしい。

1-2. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

1. 支援事業

第4次東村山市総合計画実施計画「子ども読書活動ボランティア養成事業」

(1) 東村山子ども読書連絡会 (2回 参加人数 延べ30人)

市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として年2回開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換などを行った。

(2) 講座や研修会等の開催

- ◆ 「ボランティアのための『子どもと本を知る』講座」(5回 参加人数 延べ282人)
専門家による2講座のほか、図書館職員と、読み聞かせや学校図書館のボランティア協力による3講座を開催した。
- ◆ 「東村山うちでのこづち」(25年度より独立した市民団体として活動)のおはなし会・講座開催への支援を行った。
- ◆ 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会 (4回 参加人数 延べ52人)
乳幼児への読み聞かせで使うおすすめ本の紹介や、情報交換を行った。
- ◆ 読み聞かせ入門講座 (2回 参加人数 35人)
要請に応じて小学校に職員が出向き、保護者対象に読み聞かせの基礎知識を伝えた。
- ◆ その他、図書修理講習会の開催、『学校図書館の手引き』(管理・運営マニュアル)の更新など

2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- ◆ 乳幼児への読み聞かせ 39か所 319回
3~4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- ◆ 小学生への読み聞かせ (1校 42回)
- ◆ 各種関連団体との取り組み（おはなし会、豆本づくり講習、調べ学習講座等）

成果

- ◆ 子どもの読書に関わる市民に対して、活動の状況に応じた講座・交流会の実施や、近隣の講座情報等も含めた様々な情報提供等、継続的な支援を行った。
- ◆ 「東村山うちでのこづち」によるおはなし会等が盛況で、新たな形の協働事業として位置付けることができた。
- ◆ ボランティア派遣については、要請を受け新規の派遣も行うことができた。

課題

- ◆ 「東村山子ども読書連絡会」については、長年活動している市民が参加しているが、参加者の増加や新しい人材の掘り起こしも必要である。
- ◆ ボランティア派遣については、ボランティアの活動を支援する研修等の実施とともに、派遣先との調整、ボランティアに合った派遣先の選択など、全体をコーディネートできる職員の人材育成が不可欠である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 東村山子ども読書連絡会は様々な活動をするかたが一堂に会するので、それぞれの活動のつながりがわかり、ベテランのかたの意見もきくことができる機会となっている。
- ◆ とても良い内容で講座が企画されているが、タイトル・講師名だけでなく、初心者にも内容がイメージできるようにPRを工夫してほしい。

1-3. 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援（継続）

取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」）の通年配置 2 年目となり、教員への直接支援は減り、学校司書への支援が拡大した。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12 名による 2 校兼務の体制で、各校には週 2 日、1 日 5 時間の勤務。うち 2 名は支援担当として週 2 日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

<研修等>

- 学校司書の研修会（3 回）のほか、学校図書館担当者連絡会（3 回）での研修や教員意見の聞き取り・調整を行った。
- 学校図書館ボランティア研修会は、「ボランティアのための『子どもと本』を知る講座」の 1 講座として実施した。
- 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。

<支援>

- 毎月図書館だよりのコンテンツとして、テーマ別図書紹介、図書館基礎知識などを、また授業支援ができるように教科書単元別の支援例や関連図書の情報を送付した。
- 新刊情報、学年別推薦図書リスト等を提供した。
- 学校図書館の分類を学ぶ機会が増えたため、分類指導用「分類ゲーム」セットを全小学校に配布できるように、「分類ゲームを作る会」を開催し、ボランティアの協力のもと作成を開始した。
- 百科事典学習の補助資料として小学生用ワークシートを作成し、提供した。
- 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出、購入図書選定の相談受付、ボランティアへの修理講習等を実施した。

学校への図書貸出件数 647 件（15,547 冊）（24 年度 664 件 16,532 冊）

成果

- 通年配置 2 年目となり、図書館の学校司書支援業務は軌道に乗って来た。
- 百科事典学習のためのワークシート等の資料は、活用する学校が増え、好評だった。
- 児童・生徒や教員に学校司書を活用する意識が高まり、学校図書館の整備や授業での活用が進んだ。

課題

- 配置日数が十分でないために、授業支援ができるクラスが限られ、必要な資料準備や作成の時間も確保できないため、配置時間拡大の必要がある。
- 臨時職員であるために安定的な任用体制が取れていない。

図書館協議会からの意見

- 学校司書が配置されたことで、子どもたちにとって読みたくなるような環境が整いつつあり、図書ボランティアとの協力も良い形でできているが、週の半分以下の配置日数であるため、日数増が必要である。
- 利用ガイダンス等も行われているが、学校司書が授業にどう関わるかが大切である。
- 授業で活用できるように、図書館との連携を図りつつも、蔵書数充実が求められる。

2. 資料提供の充実

2-1. インターネットを活用した情報提供の充実（新規）

取り組み内容・実績

第4次東村山市総合計画実施計画

「インターネットを活用した中央図書館における情報提供の充実」

1. 利用者用インターネットパソコンの設置・運用

- ◆ 10月より、中央図書館にインターネット検索用パソコン2台、オンラインデータベース用検索専用パソコン1台を設置し、運用を開始した。
- ◆ 1回の利用を30分として継続使用も可としたが、30分以上利用する人も多く、月60～70件程度利用されている。

2. オンラインデータベースの拡大

- ◆ 年度当初より順次導入を行い、10月には7種類の利用を開始した。(24年度2種類)
- ◆ 法律・判例関係のほか、「日経テレコン」(日本経済新聞等・企業情報)、「聞蔵Ⅱビジュアル」(朝日新聞・用語辞典)、「ヨミダス歴史館」(読売新聞・人物データベース)などを備え、職員事務用と利用者用とで共用とし、職員によるレファレンス業務や新聞・雑誌記事検索等による漏れのない資料情報の収集にも活用している。
- ◆ 職員が各データベース操作を修得できるように研修を行った。

3. PR

- ◆ 10月の運用開始にあわせて、館内ポスター・チラシ、市報、図書館HPによってPRを行った。

成果

- ◆ パソコン利用環境にない利用者にも、気軽にインターネット情報が利用できるようになり、情報収集の拡大を図ることができた。
- ◆ オンラインデータベースの種類を増やすことにより、効率的に信頼できる情報を提供できるようになった。

課題

- ◆ 通常のインターネット利用は増加傾向ではあるが、オンラインデータベースも含めて積極的にPRをしていく必要がある。
- ◆ 通信回線の種類を改める必要がある。
- ◆ オンラインデータベースの操作、活用については複雑な部分も多く、十分に活用できるようにするためには職員が習熟するよう研修を継続する必要がある。

図書館協議会からの意見

- ◆ 館内での無線LANや子ども用データベースの導入を検討してもらいたい。
- ◆ 市役所の職員にも業務に活用してもらえるようにPRすると良い。
- ◆ 使えるデータベースの紹介や調べ方ガイドなどもできると良い。

2-2. 大活字本や音訳CDの利用促進（新規）

取り組み内容・実績

高齢者や弱視者に読書を楽しんでもらえるようにするため、大活字本や音訳CDを収集し、様々な方法で紹介して利用を促進した。

1. 資料の充実

- ◆ 予算配分の調整により、25年度は大活字本と音訳CDの購入割合を増加した。
- ◆ 双方とも古典的な名作文学作品を中心に、さらに大活字本については最近のベストセラーも含めて計画的な収集を行った。

2. 提供方法の工夫

＜新着案内の作成＞

- ◆ 大活字本については25年度より新着案内を年2回発行し、各館の大活字本コーナーで配布するとともにホームページにも掲載した。音訳CDについては、従来の視聴覚資料の新着案内の中に掲載して紹介した。

＜本の展示＞

- ◆ 大活字を紹介する展示「大活字本、知っていますか」を7～8月に行ってPRした。

＜活字の大きさと書体を本のデータに表示＞

- ◆ 活字の大きさや書体の違いは見えにくいかたにとっては読む上での制約になる場合もあり、大活字本を選ぶ際のポイントとなる。活字や書体が出版社によって異なるため所蔵目録に表示するほか、検索したデータからもわかるように、25年度に購入した分には通常の本のデータにも修正を加えて確認できるようにした。

成果

- ◆ 新たな資料の購入や新着案内・展示等のPR、データ修正等の工夫により、大活字コーナーの利用が増え、高齢者施設への貸出においても喜ばれている。

課題

- ◆ 活字の大きさと書体のデータ入力については、25年度購入分は修正できているが、既存分はまだ僅かしか取り組めていない。1冊ずつ現物を確認しながらの作業となるが、26年度中には入力を終了したい。
- ◆ 地区館では大活字本のスペースが限られているため、目録や新着案内を活用するほか、館を超えた本の入れ替えを定期的に行うことにより利用改善を行いたい。
- ◆ 音訳CDについての紹介が十分にできていないため、展示や新着案内に取り組む必要がある。

図書館協議会からの意見

- 高齢者が十分に活用できるように、大活字本の新着リスト等の利用しやすい取り組みは、引き続き取り組んでもらいたい。
- 大活字本は大きくて重いので高齢者には不便な面もあるので、音訳CDの充実も必要だと思う。

2-3. 視覚障がい者等へのデイジーによる情報提供の充実（一部変更で継続）

取り組み内容と実績

視覚障がい者への提供情報としてデイジー資料（デジタル音声資料）が求められており、本市においては東村山音訳の会（25年4月に東村山朗読研究会から名称変更）の協力を得て、デイジー資料作成を進めている。

（実績）

- ◆ 会員向けの音訳技術、録音技術向上のための講習会を3テーマ13回実施した。
 - 「短期中級音訳講習会」（東村山音訳の会全会員対象） 4回
 - 「中級音訳講習会」（同会2年次会員対象） 6回
 - 「デイジー初級講習会」（同会全会員対象） 3回
- ◆ 市議会だよりは、市ホームページ上での音声公開を5月から開始した。
- ◆ デイジー図書を4タイトル作成し、696タイトルの貸出をした。
（貸出実績：23年度＝429タイトル、24年度＝543タイトル）
- ◆ 障がい者登録利用者（個人25名と2団体）に対して、提供しているデイジー版やテープ版の市報や対面朗読、利用の状況などについて、電話で聞き取りアンケートを行った。
- ◆ 24年度に募集した新規会員の研修期間を終了して、対面朗読を開始した。

成果

- ◆ デイジー資料作成が軌道に乗ったことにより、市ホームページ上の音声版は市報に加え、市議会だよりも音声で聴けるように公開することができた。
- ◆ 新規会員が活動に加わることにより音訳ボランティア体制の増強ができた。
- ◆ 電話アンケートにより利用者の意見を聞くことができた。また、テープ利用者にはデイジーの概要案内を行い、関心のあるかたへの紹介をすることができた。

課題

- ◆ 新たな音訳資料の作成については全国的にもデイジー版が中心となっており、借用して提供できる資料も増えているので、テープ利用者にはデイジーのメリットを理解してもらうための活動が必要である。
- ◆ 音訳技術の維持向上のためには、研修が欠かせない。行政情報も含めた音訳資料の作成は安定して継続することが求められ、今後も計画的に研修を実施していく必要がある。
- ◆ デイジー資料の作成にあたって録音・編集を行うための機器が不足している。

図書館協議会からの意見

- ◆ 点字図書館や国立国会図書館、公共図書館等が作成した音訳資料を共有する仕組みができてきているが、今後は借用して提供するだけでなく、作成したものを提供できるような体制ができると良い。
- ◆ デイジー機器を持たない高齢者もあり、“聞く”環境はまだ整っていない。

3. 読書環境の整備

3-1. 安定的な施設管理および適切な読書環境維持への工夫（一部変更で継続）

取り組み内容・実績

各館とも開館から 20 年～30 数年経過しているため、設備の故障等が目立ってきているが、本庁の管財課、設備管理委託業者、また併設館においては公民館職員との連携・協力により、調整しながら対応を行った。

<中央図書館>

- ◆ 1 階一般トイレ等改修工事（一部洋式化及び小便器交換と老朽化した配管の改修）
このほか、業務用ダムウォーター修繕、トイレ用排気ファン修繕、自動ドアセンサー修繕等を実施した。2 階の冷水機が故障したため新たに購入設置した。

<富士見図書館>

- ◆ 2 階視聴覚ホールのカーペット張り替え
このほか、和便器フラッシュ弁等修繕、子供用女子トイレ照明器具修繕、事務室照明スイッチ修繕等を実施した。

<萩山図書館>

- ◆ 照明器具修繕（26 年度に継続）
開架フロアの対象箇所が多いため、数年かけて計画的に修繕を実施する初年度

<秋津図書館>

- ◆ 大型ブックポスト 1 台の増設
- ◆ 図書館事務室・書庫部分屋上の防水工事（24 年から継続・公民館予算）

<廻田図書館>

- ◆ 蛍光灯安定器の修繕（24 年度から継続）
- ◆ たたみコーナーの畳表交換

成果

- ◆ 秋津図書館はブックポストへの返却数も多く、中で本が詰まることがあったため、大型ポストを 1 台増設した。紙芝居など大判の資料は新設ブックポスト利用をお願いする表示をしたことで、効率よく多くの資料が収容できるようになった。
- ◆ 中央図書館では洋式トイレを男女各 1 か所増設し、さらに配管だけでなく排気ファンも交換したことで、臭気の改善も図れた。

課題

- ◆ 地区館はすべて耐震改修の必要はないが、中央図書館の耐震診断は未実施であり、市の公共施設再生計画策定を進める中で耐震等の検証や今後の在り方について検討していく必要がある。

図書館協議会からの意見

- ◆ 中央図書館のように独立して設計された建物は貴重であり、日常の利用が多く、大勢の人を迎える施設なので早期の耐震診断が望まれる。

3-2. 図書館システム更新に伴う業務整理および安定的な移行実施（新規）

取り組み内容と実績

- 図書館システムの更新時期を迎え、保守期間を終了するサーバや機器類の入替を行った。
- 図書館システムについては、利用者の利便性を考慮して調整作業を加え、7日間の休館期間中に滞りなく実施できた。
- 更新に際しては、稼働後に予約取置のメール受信が一部できなくなったり、携帯電話からの蔵書検索上のトラブル等が発生したが、概ね短期間で不具合を改善することができ、安定稼働に移行することができた。

<運用変更も含め整理したこと>

- 10年以上利用がない登録者の利用者データを削除するとともに、有効期限を付与し、個人情報が必要以上に保持しない運用に変更した。
- 図書館ホームページを一部改修し、インターネット上のログイン状態を継続して予約できる機能等を追加して「利用者メニュー機能」を整備した。
- 利用者用端末「けんさく君」をすべてキーボードとタッチパネル併用型にした。

成果

- 基本的には同じシステムを使い続けることにより経常経費を抑え、図書費の100万円増額、利用者用インターネット端末の設置・オンラインデータベースの導入により、提供できる情報そのものの拡大を図ることができた。
- 図書館ホームページに利用者メニュー機能を新たに加えたことにより、検索・予約入力の利便性向上を図ることができた。

課題

- ♦ 図書館システムの基本機能（パッケージ部分）を継続使用しているため、抜本的な機能改善や新たな機能を取り入れることについては、次期システムの更新時（平成30年度）の課題とせざるを得ない。
- ♦ ホームページのアクセシビリティ改善については、システム的な対応ができないため、図書館独自のホームページを維持しつつ、職員のできる範囲で計画的な改修を行う必要がある。

図書館協議会からの意見

- ♦ 予約のページが使いやすくなった。
- ♦ 視覚障がい者用のデージー資料も検索ができるようになると良い。

4. 職員体制の充実

4-1. 業務内容に応じた各種職員研修の充実（一部変更で継続）

取り組み内容・実績

1. 内部研修

- ◆ **日常業務を深めるための研修**（専門知識・技能の習得）
図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）・検索研修（対象：全職員）
- ◆ **レファレンス研修**
レファレンス課題研修（毎月2問演習問題を出し、調査後口頭で回答）
対象：調査資料係嘱託職員
データベース操作研修 2回
（第一法規法情報総合データベース、ジャパンナレッジについて、講師を招聘）
対象：レファレンス関係職員
- ◆ **ブックトーク研修 1回**
（小学4年生対象のブックトークについて、職員が講師となって実演指導）
対象：児童担当嘱託職員
- ◆ **「子どもと本を知る講座」 5回**
（ボランティア対象の図書館主催講座。内容により、外部講師を招聘）
対象：児童担当職員・嘱託職員

2. 外部研修への参加 14回（内、見学会1回）

- ◆ 都立図書館・都内の図書館関連団体が開催する講演会、研修会への参加により、図書館に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

3. 全庁的な研修

- ◆ 接遇研修・コミュニケーション研修・クレーム対応力向上研修など窓口対応に必要な研修については職員だけでなく、嘱託職員も積極的に派遣した。

4. その他

- ◆ 整備された書架づくりを維持するため、書架担当職員への適切な助言、育成を行った。
- ◆ レファレンスカウンターに入る嘱託職員には、回答に使用した資料やWeb情報についての解説や接客について、随時説明して情報共有を図った。

成果

- ◆ 各担当の嘱託職員への研修機会が増え、業務への理解を深めることができた。
- ◆ データベース研修により、操作や活用への一助となった。

課題

- ◆ 業務の質を高めるためには、今後も研修が有効であるが、内部研修だけでなく、外部研修への参加機会を増やすためにも、日常業務の効率化に取り組む必要がある。
- ◆ オンラインデータベースの導入により、データベース操作・活用の研修も必要となる。

図書館協議会からの意見

- ◆ 今後も研修を計画的に行い、継続して研さんに励んでもらいたい。